

～一人ひとりに目を向けた支援を～

てしろもりの丘あおばを訪ねて

【職員紹介】

太駄 由貴 生活支援員

所属：てしろもりの丘あおば

採用：平成25年度採用

仕事内容：利用者様の日常的な生活支援



私の支援の核は障がい特性で決めつけず”個人を見ること！”

【志望理由】

Q 岩手県社会福祉事業団を目指した理由を教えてください。

A 私はもともと岩手県社会福祉事業団の非正規職員として働いていました。事業団では、支援対象が子供から大人まで幅広く、また就労やグループホーム、デイサービスなど様々な事業を行っていることを知り、事業団で働くことで色々なことを経験し成長することができるのではないかと思ったからです。

【福祉について】

Q 福祉という仕事を選んだ理由を教えてください。

A 「笑ってよ、ゆっぴい」(著者：石井 めぐみ)という本をきっかけに、小学生の頃に障がいを持つ方々がいることを知りました。障がいのある方々はとてもつらい思いをしていることを知り、支えたい力になりたいという思いから福祉という仕事を目指すようになりました。

【てしろもりの丘あおばについて】

Q 施設で余暇活動はどのようなことをしていますか？

A 音楽を聴いたり、一人ひとりが楽器を演奏する音楽活動や、スヌーズレン、調理実習でみんなでホットケーキを作ったりしています。ホットケーキは、利用者が混ぜたり、ひっくり返したりしてとても楽しいですよ！他にもお茶会や公園までドライブをしたり、輪投げやボウリングカラオケもしたりします。歌うのは演歌だったり童謡だったりですね。様々な余暇活動を行っていて皆さんにとっても楽しんでいただいています。



【仕事について】

Q 仕事で心がけていることや大切にしていることは何ですか？

A 利用者様全員を一括りに見るのではなく、一人ひとりを見ることを大切にしています。自閉症の方が2人いたとしても、一人ひとり強みや、考え方、特性があり同じ人はいません。障がいの特性で決めつけるのではなく、個人を見ることをとっても大切にしています。また、障がい重い分その方が何をしたいのか分からないこともあるため、ちょっとした変化に気が付けるようにしています。他の職員とその方の情報交換を行ったり、表情の変化を気を付けて見ることを心がけています。

Q 利用者様の自己決定を尊重するためにどのような支援を行っていますか？

A 例えば食事のメニューに「カレー」「ラーメン」「ハンバーグ」という選択肢があったとすると、話すことが難しい方でも選んでもらえるように、食べ物の写真や絵を見せてどれがいいか指さしてもらったり、平仮名を用いるなど工夫をしています。また、利用者様主体で行っている自治会では、月に一度、来月はどのような活動をしたのかなど利用者様の思いをくみ取る例会を行っています。

Q 利用者様との信頼関係はどのように築かれていますか？

A 日々の他愛もない時に話しかけたり、そっとそばに座ったり。人との関わりが好きな方には積極的に話しかけています。その反面、人と関わるのが苦手な方もいるため、相手との距離感に気を付けています。その関わり方の積み重ねで利用者様は職員をこの人は関わっても大丈夫だなと思ってくれます。信頼関係を築くには積み重ねが大切なんだと思います。

Q 学生に求めるものは何でしょうか？

A 固定観念を持たず、この人はこういう疾病があるからこうだねという見方ではなく、こういう見方もできるよねという柔軟な考えを持つことだと思います。色々な人の意見を聞きながら、視野を広く柔軟に捉えられること必要だと私は思います。

太駄さんは、利用者様一人ひとりと常に向き合い、寄り添った支援を行っている優しくとてもあたたかい方でした。今回お話を聞き、多くのことを学ばせていただきました。インタビューにお答えいただきありがとうございます！